

東京高連ニュース

発行
東京高齢期運動連絡会
電話03(5956)8781
FAX03(5956)8782
em:tdyo.kureiki@gmail.com
発行人：福井典子

「コロナ禍にいのちを暮らす」を守る

「ゆたかな高齢期をめざす」

東京のつどい「分科会はじまる」

1月19日ゆたかな高齢期をめざす東京のつどいの第1分科会が開かれました。WEBふくめて44人が参加しました。

実行委員会からのつどい全体の基調と分科会の基調の提起のあと「高齢になっても安心して住み続けられるまちづくり」をテーマに、5人が取り組みの報告を行い、活発な質疑討論が行われました。

①東京保健生協は、練馬のフードバンクの取り組みを報告しました。

練馬では地域の医療生協と購買生協が協力し地域包括センターや社会福

祉協議会などともつながり、幅広い連携の体制を作っています。その仕組みがコロナ禍で昨年3月から始まったフードバンクを支えています。

教室は成功し、大きなLINEグループの組織につながりました。組合員からは、「コロナ禍でも家でみんなと話ができる」と好評です。赤羽東支部では交流の場「ホットカフェ」も週に五日開いています。

②東京ほくと医療生協は、赤羽東支部のスマホ教室についてレポートしました。やりながら方針を修正し、目当てを「LINEができるようになる」一点に絞り、専門の講師を呼ばず、ちよつと使えるくらい身近な人が教え手になりました。

分科会の休憩時間に、会場参加者の中で「うちでもLINE講座をやる」などと話が盛り上がっていました。

③代々木健康友の会はワクチン接種支援について話しました。「券が届いたがどうすればいいかわからない」という高齢者もいる中で、会員に

「予約を手伝います」と案内を送りました。なんでも相談コールセンターも設置して相談を受けました。接種会場への送迎も行いました。この活動の中で地域との信頼関係が深まりました。

④足立健康友の会は、会員アンケートを紹介しました。班会やサークルができない中で数百人に電話をかけて様子を聞きました。感染がいつまで続くかという不安、親しいひと、知人、友人と会えないこと、感染しない

⑤中野区宮桃町会から町会長が参加しました。自治会では、中野区の条例に基づいて、見守りの必要な対象者の名簿の提供を受け、訪問活動とサロン活動を行っています。ところが、コロナ禍でそれを休止していた間に孤独死が起きました。手分けして対象者を訪

問したところ認知症やフレイルで要介護や入院している人がいることがわかり、感染対策をとって月2回の訪問を再開し、対象者から喜ばれています。

長びく新型コロナウイルス感染症が、オミクロン株による第6波が猛威を振るっています。厳しい情勢を切り開き、東京高連運動の前進を目指し、コロナ感染に最大の注意を払いながら対面での総会をめざして準備を進めています。

やゆたかな高齢期をめざす東京のつどいも実施できず、東京高連の財政にも大きな困難を抱えています。各地域・団体の知恵と力でこれ乗り越える総会にしたいと思えます。すでに加盟組織には「総会の案内」をお届けしています。みなさんの参加を心より訴えます。

・日時 2月28日(月) 1時30分開会
・会場 豊島区 東部区民事務所
※参加人数 コロナ感染拡大をおさえるため、派遣役員十各地域・団体から1名の参加をお願いします。

2月28日第30回定期総会 今年是对面総会を行います

フロア発言の中で各区の取り組み、三多摩各地の取り組みやコロナ感染と横田基地の問題なども紹介されました。コロナ禍の中での地域のがんばりが伝わる分科会になりました。

怒りの署名で、75歳以上

医療費2倍化を阻止しよう！

このままでは、すべてが3割負担に！

「75歳以上の医療費2倍化阻止署名」の取り組みが、多くの団体・地域で始まっています。しかし、1月28日の集約ではまだ全国で17万1218筆です。さらにテンポをあげることが大事になっています。

みなさんの手元にある署名は1枚でも2枚でも、至急届けてください。同時に、取り組みの状況や苦労話もお知らせください。

東京高連では、運動の輪を広げるために、いろんな方にメッセージをお願いする取り組みも始めました。現在届いているメッセージを紹介します。

※城南信用金庫
名誉顧問 吉原 毅

人生100年時代と言われ、健康寿命の延伸が

求められています。高齢者の活躍の場や、就労の機会の創出が必要とされる中、今回の負担増は活動の大前提となる「安心と暮らし」に逆行するものです。社会保障を全世代型にして、現世代の負担減を目指すのであれば、充実した社会保障を維持して、高齢者の活躍を促進し、経済の活性化を図り「令和版所得倍増計画」を実現することを目指すべきではないでしょうか。負担の倍化により、後期高齢者の「受診控え」という事態を招くことのない政策を望みます。

※仙台市輪王寺
住職 日置 道隆

自国通貨建て国債は絶対にデフォルトしない。つまり、国債発行でまかなうべきものを、75歳以

上の医療費窓口負担2割化でまかなおうとしているのは、ペテンです。政治のウソは正さなければなりません。頑張ってください。

※明治学院大学
名誉教授 河合克義

「75歳以上の高齢者の医療費窓口負担2割化の中止を！」

実際に「健康で文化的な生活」が出来るように、各制度の総合調整が必要です。各制度がバラバラに負担増を進めることは、生活の破壊です。

こんなに、国民に冷たい国はありません。高齢者に対する負担増は、限界をこえています。



※天沼診療所
所長 竹崎 三立

当診療所では70才在宅の患者さんの診察をしております。現在の制度では一割負担でも月6000円余かかります。二割になれば診察を受けられなくなる方がおられます。

※東北大学名誉教授・元経済学部長
医師 日野 秀逸

高齢者の暮らしと生存を脅かす窓口負担2割化に強く反対します。

病院から在宅へと患者さんを流している今の医療政策では、行き場のない方が孤立してしまいます。二割負担は大反対です。

年末から年始にかけて、コロナ禍による収入の減少、小麦や石油の価格上昇による灯油や食品などの生活必需物資の値上がり、それに伴う消費税負担の増加が、私たちの暮らしを襲っています。身近の牛井屋でも、500円のランチが550円

と10%値上がりしています。こうした現状に対して、

後期高齢者医療の2割負担が加われば、生活必需品での負担増に加えて、生存に不可欠な医療の負担が大幅に増えて、ますます「健康で文化的な」生存が脅かされます。

高齢者に、医療に関する不安をもたらし、受診を控えさせ、苦しみを負わせる2割負担化に強く反対します。

コロナ禍での負担増をやめろ！

東京社保協・東京高連が

広域連合に要請行動

東京社保協と東京高連は1月14日、高齢者医療費窓口負担2倍化と保険料の問題で、広域連合に要請を行いました。

要請には、東京社保協と東京高連から6名が参加し、広域連合からは大井哲爾副連合長な

どが対応しました。私たちは①窓口負担2倍化の中止を求める意見書を国の関係機関へ提出すること。②22年度、23年度保険料を引き下げ、少なくとも据え置くことを要請しました。

副広域連合長は「要請の2項目ともできない相談です」「保険料については収入153万円で値上げは800円、この程

度は納得してもらわなければ」と話しました。

参加者からは、練馬区の高齢者の現状について詳しく説明し、アンケートによる高齢者の生活実態、医師へのアンケートに見られる患者と医療への影響などを説明し、コロナ禍の中での負担増を止めるよう強く求めました。

話し合いの中で副連合

2022年度・2023年度の保険料

年収	値上げ	年間保険料
153万円	800円	13,900円
200万円	4200円	81,700円
400万円	12000円	264,100円
平均	3789円	104,842円

長はー75歳以上の窓口負担2倍化についての反対の声は、各団体からも広域連合議会からも出ていない」と断言し、私たちの要求を拒否しました。このような広域連合の実態を広く伝えるとともに、広域連合に対して高齢者の暮らしの実態と要求を繰り返し伝え要請を重ねること、広域連合議会を継続的に傍聴し監視することの必要性を痛感しました。

■要請の場では、後期高齢者医療保険の保険料「最終案」によれば、2022年度と2023年度の保険料は、現在か

「ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい」分科会に参加してください

第2分科会

・介護保険制度学習会
 <介護保険制度の抜本的改革提言>
 日時：2月5日（土） 14：00～16：00
 場所：東京労働会館7F ラパスホール
 申し込みは、

<https://forms.gle/iim.JYdR8VvuVdhrq8> のフォームからお願いします

第3分科会

・高齢者の実態と人権・これからの運動
 日時：2月19日（土） 13：30～16：30
 会場：北多摩西教育会館3F 大会議室
 申し込みは

tokyo.koureiki@gmail.com（東京高連）へ

ら平均3,789円引き上げられ、年平均104,842円になります。均等割り額は46,400円（現44,100円）、所得割率は9.4%

（現8.72%）です。賦課限度額は、現在の64万円から2万円上がり66万円になります。



75歳以上医療費2倍化中止を！新宿アルタ前宣伝第4弾

年の瀬もつまった12月26日に、歩行者天国で賑わう新宿アルタ前で宣伝行動を行いました。32人が参加し、横断幕を掲げ、新しいビラを配って「患者負担ふやすな」の声を響かせました。

12月24日に自公政権は、75歳以上の医療費窓口負担2倍化を含む予算案を閣議決定しました。

その一方で同時に決定された税制改正大綱には、超富裕層優遇を改める金融課税見直しなどは盛り込まれませんでした。

26日の宣伝行動は、この決定にただちに抗議を突きつけるものとなりました。

国民と労働者の力で、自公政権の攻撃を跳ね返し、75歳以上の高齢者の医療費2割負担実施を撤回させるまでたかいを広げましょう。

みんなでもう一頑張りして、知人・友人に訴えて署名を集め、至急届けさせてください。



東京高連緊急事態

皆さんの協力をお願いします

終息するかわからないコロナ禍のなかでの、コロナに注意しながらのみなさんの活動に敬意を表します。

東京高連も皆さんの協力のもと、「活動の停滞は避けよう」と可能な限り活動の継続をして

きました。しかし、この2年間日本高齢者大会や東京のつどいなど、東京高連財政を支える活動が出来ませんでした。

東京高連の年間予算はおおよそ100万円で、そのうち、みなさんからの会費が約40万円、あとの60万円近くは前年度からの繰越金と、日本高齢者大会、ゆたかな高齢者をめざす東京のつどいなどに関連する事業収入で賄ってきました。コロナ禍の2年間これらの活動が制限され、窮

地におちいつています。

今年2月28日に総会を決め、準備の段階で会計決算しましたところ、次年度への繰り越しはわずか7万4千円でした。

事務局でもこのような事態を予想し、早くから「財政確立資金カンパ」事業収入のため、「うどん・そうめんなどの販売」を呼びかけてきましたが、残念ながらどれも成功していません。

資金カンパは33団体・個人から291,000円、物販販売では事務局扱いで53,050円。でした。

今年1月4日に、新たに「第31回ゆたかな高齢者をめざす東京のつどい賛助金」のお願いを、加盟団体をお願いしていますが、協力の申し出は現在1件だけです。

しかし、一時的な財政問題で運動の停滞は許されませんので、先日の常任幹事会で、2023年2月に中野ゼロホールで第32回東京のつどいの開

催を決め、会場予約金216,900円の支払いも行いました。

この危機を乗り越えるために、「第32回のゆたかな高齢者をめざす東京のつどい賛助金」を団体・地域・個人に訴えることを決めました。

各地域・団体でも、コロナ感染拡大の影響で、会議などが開きにくい状況にあると思いますが、この緊急事態を乗り越え、運動を発展させるため、「第32回東京高齢者のつどい賛助金」にぜひ協力下さい。よろしくお願

い致します。(東京高連会計：早川)

ご賛同いただける方は
下記口座をお願いします

郵貯振込口座 記号番号
00160-4-357421
口座名：東京高齢期運動連絡会

75歳以上の医療費窓口2倍化なんとしても中止・撤回に！ 東京高連がブックレット出版

医療費窓口負担2倍化は、高齢者の命と暮らしをけずる重大事です。しかし、当事者の高齢者にはほとんど知らされていません。

今でも私たちの宣伝に「ほんとうか、初めて知った」という声が返ってきます。

その結果、高齢者の怒りも広がらず、まだ世論と運動が大きく広がっていません。

重大な問題であるにもかかわらず、75歳以上の窓口2倍化問題に焦点を絞った本は出版されていません。東京高連は多くの国民に問題を知らせ、国会論議を起

こし、参議院選挙の争点に押し上げ、法律を中止・撤回に追い込むことを目的として、緊急にブックレットを作成し出版することにしました。

内容は「75歳以上の高齢者医療費窓口負担2割化の中止を求めろ！怒ろう！高齢者 吼えよう！子や孫のためにも！」

内容は
・1章 「75歳以上の高齢者窓口負担2割化」とは何か？
・2章 2割化になるとどうなるか？高齢者・国民にどんな影響がでるか？
・3章 2割化の後どうなるか？これで終わりでない、引き続き負担増

・4章 高齢者分野を対象とした社会保障「改革」が続く背景くなぜいま

75歳以上の高齢者窓口負担2割化」が登場してきたか？

・5章 自己責任論と「自助・共助・公助」論
・6章 コロナ禍で現実になった政府の医療費削減政策の失敗
・7章 どうすれば高齢者窓口負担2倍化を中止させられるか

1章から3章は、寺尾正之さんが執筆。4章は、村田隆史さんと吉岡尚志さんが執筆、5章は、村田隆史さんが執筆、6章は鐘ヶ江正志さんが執筆、7章は菅谷正見さんが執筆しました

頒価は300円
2月1日には第1刷が出来ます。ぜひ活用して下さい。

東京高連ブックレット
「75歳以上の高齢者医療費窓口負担2倍化の中止を求めろ！
～ 怒ろう！高齢者 吼えよう！子や孫のためにも ～



東京高齢期運動連絡会